

令和6年度 第1回地域福祉計画策定委員会 会議経過要旨

会 議 名	第1回木津川市地域福祉計画策定委員会
日 時	令和6年9月2日(月) 14:00~15:57
場 所	木津川市老人福祉センター2階会議室
出 席 者 ■:出席 □:欠席	<p> <input checked="" type="checkbox"/>安藤委員 <input checked="" type="checkbox"/>石塚委員 <input checked="" type="checkbox"/>行衛委員 <input checked="" type="checkbox"/>福井委員 <input checked="" type="checkbox"/>吉田委員 <input checked="" type="checkbox"/>中森委員 <input checked="" type="checkbox"/>福井委員(代理) <input checked="" type="checkbox"/>植村委員 <input type="checkbox"/>岩井委員 <input type="checkbox"/>東委員 <input checked="" type="checkbox"/>鴛田委員 <input checked="" type="checkbox"/>大塚委員 <input checked="" type="checkbox"/>田中委員 <input checked="" type="checkbox"/>岡田委員 <input checked="" type="checkbox"/>須河委員 <input checked="" type="checkbox"/>馬委員 <input checked="" type="checkbox"/>林委員 <input checked="" type="checkbox"/>田中委員 <input type="checkbox"/>藤本委員 <input checked="" type="checkbox"/>井上委員 <input checked="" type="checkbox"/>坂田委員 <input type="checkbox"/>北川委員 <input checked="" type="checkbox"/>中澤委員 <input type="checkbox"/>柘植委員 <input checked="" type="checkbox"/>山本委員 </p> <p>事務局:(健康福祉部) 石本課長、小西主幹、赤岩係長 (社会福祉協議会) 渡邊事務局長 中尾次長、松田課長、関係長 (株式会社ぎょうせい) 成田主任研究員、鳴海研究員</p>
傍 聴 者	0名
議 題	<p>(1) 今後のスケジュールについて 資料1</p> <p>(2) 市民アンケート結果報告について 資料2 資料3</p> <p>(3) 現計画の評価結果について 資料4 資料5</p> <p>(4) 計画骨子(案)について 資料5 資料6</p> <p>(5) その他</p>
審 議 結 果 要 旨	<p>1 開会 開会宣言 委員20名の出席により会議が成立していることを確認した。</p> <p>2 委員長挨拶 安藤委員長が開会挨拶を行いました。</p> <p>3 出席者紹介 出席委員、事務局職員、委託事業者がそれぞれ自己紹介を行いました。</p> <p>4 議事 安藤委員長が議長となり、議事を進行した。</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて 事務局より資料1により説明した。</p> <p>(2) 市民アンケート結果報告について 事務局より資料2、資料3により説明した。</p> <p>(3) 現計画の評価結果について 事務局より資料4により説明した。</p> <p>(4) 計画骨子(案)について 事務局より資料5、資料6により説明した。</p>

	<p>(5) その他 特になかった。</p> <p>5 閉会</p>
審議経過 要 旨	<p>1 開会 審議結果要旨のとおり</p> <p>2 委員長挨拶 審議結果要旨のとおり</p> <p>3 出席者紹介 審議結果要旨のとおり</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて 資料1に基づき、事務局から策定委員会の今後のスケジュールと審議していただきたい内容等について説明した。 (質疑) なし</p> <p>(2) 市民アンケート結果報告について 資料2、資料3に基づき、事務局から木津川市の地域福祉についての市民アンケート調査結果(概要)及び木津川市の地域福祉関連団体の意識調査結果(概要)について説明した。 (主な質疑、意見) 委員：資料2のアンケートでは684人から回答があり、多くの設問のn値が684となっているが、「2 困り事や福祉との関わりについて」の令和6年度n値は46となっている。これは46人が回答しているということか。 事務局：この前問で悩みや困り事の相談先について聞いており、前問で相談しない・できないと回答した方が46人だった。その方に理由を聞いているため、回答数が46となっている。 委員：684人のうち悩みや困り事について自分で対応したいと考えている人は684人中の23人ということだが、パーセント表記だと実数がわかりにくい。相談しない・できない人が困難な状況に陥りやすいことを考えるとこの人数は大事なので、実数を入れるなど工夫があるとありがたい。 事務局：資料2は概要だが、報告書には実数も記載されているため詳細は報告書で確認いただきたい。 委員：木津川市社会福祉協議会の取組の評価で、n値が213というのは取組を知っている人の中での評価という理解でいいか。 事務局：684人のうち取組を知っている31.1%の中で評価していただいて</p>

	<p>おり、n 値が 213 となっている。</p> <p>委員：悩みや困り事の主な相談先で「市役所」が 24.4%と前回調査から 12.4 ポイント増加しており倍増に近いが、その要因がわかれば教えてほしい。</p> <p>事務局：統計からわかることとして、市役所と回答された方は女性（20%）よりも男性（31%）が多い。年齢層で見ると、65～74 歳の方が 3 割以上となっている。また、地域活動をしている方で見ると 25%となっており、地域活動をしていない人より市役所を頼っている状況がみられる。推測にはなるが、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。市役所の相談窓口では年々増加している実感はあるが、倍増とまでの実感はない。</p> <p>委員：他人に頼らず自分で解決したい・できる人が増えている一方で、市役所を相談先として選択する人が増えていることの関係性について考えていた。市役所へ自分で相談できるため、他人には頼らないという意識があるのではないか。地域のつながりが薄くなってきているなかで、市役所等の公的機関が相談先として選択されるようになってきたのではないかと思う。他市町村で同じようなことがあったため質問した。</p> <p>委員：地域福祉活動を広げるために、特に大切なことは、「自分に合う活動や参加の方法を探せる「活動情報」の発信」が最も高いとなっているが、単純に情報発信すればいいというだけではなく、ニーズに合うような情報発信の仕方や方法を分析・深堀できれば、活動に参加したい人とのマッチングがうまくいくのではないかと思った。</p> <p>事務局：1 番多かったのが「自分に合う活動や参加の方法を探せる「活動情報」の発信」35.4%、2 番が「必要に応じて専門機関に任せることができる「医療・保健・福祉の連携」33.2%、3 番が「気軽に参加できる「活動の雰囲気」づくりや支えられる側の気持ちほぐし」で 25.2% ※¹という結果になっている。この結果を受け止める必要があると考えている。</p> <p>(3) 現計画の結果評価について</p> <p>資料 4 に基づき、事務局から現計画の評価結果について説明。 (主な質疑、意見)</p> <p>委員：基本目標 3 情報の整備と発信のところで、情報を「特に入手してい</p>
--	---

¹ アンケート結果の回答に誤りがあり、正しくは 3 番が「活動を支える「場所や設備」などの確保 23.4%」となります。

ない」方が5.8%とあるが、年齢層ごとの具体的な数値を知りたい。
事務局：75歳以上の入手できていない人が1.3%であったのに対して、18～29歳は17.5%と非常に高い割合となっている。

委員：資料6に「重層的支援体制整備事業の導入を視野に」という記載があるが、整備体制はまだ導入していないという理解でいいか。

事務局：交付金を受けていないという点ではこれからということになるが、支援としては、社会福祉課の中に福祉総合相談室というところを設けてコーディネートを行っている。支援についてはこのような形で進めながら、今後制度の導入も進めて行く。

委員：この地域福祉計画で具体的な人材強化の方法と人材確保の方法とネットワークづくりの具体的なあり方を今年度作っていくという理解でいいか。

事務局：重層的支援体制整備についての今後の方向性を計画に盛り込むことになる。

委員：あげられている項目は全て大事だが、優先順位をつけていく必要がある。具体的な人材確保や人材育成、ネットワークづくりと一緒に取り組んでいけたらと思っている。

(4) 計画骨子(案)について

資料5、資料6に基づき、事務局から計画骨子(案)について説明。

(主な質疑、意見)

委員：単身世帯が増えるとどういったニーズが増えるという認識でいるのか。

事務局：高齢の単身世帯の方への対応が今後必要になると考えている。

委員：木津川市の要支援者の状況が載っているが、全国や京都府と比較できる資料があれば示してほしい。

事務局：全国や京都府のデータはあるので、比較して示せるようにする。

委員：比較の問題は重要だと思う。木津川市の体制が一般的な市町村と比べてどうなのか現状が見えないと優先順位をどうつけたらいいのかということも見えてこない。比較の中で、今後市、社協、市民として何をすればいいのかが見えてくるのではないか。人材確保と専門性の向上を是非とも入れてほしい。人材に専門性があるかどうかは大変重要なポイントになる。例えば、児童虐待に対しての体制が他の市町村と比較してどうなのか、専門性が十分なのかという現状が見えないと今後どうしたらいいのかは見えてこない。虐待の問題は背景に孤立の問題があるが、こういった孤立した世帯に介入していくスキルと体制があるかが大きなポイントであると思うので、可能な範囲で現状がわかる資料が欲しい。

事務局：可能な範囲で資料を用意する。

委員：第4次地域福祉計画は今後5年間の計画ではあるが、10年20年先の木津川市がどういう姿になっているかを考えながら今後5年間の対応を検討することが必要だと考えている。重層的支援事業についてはあくまでの包括的な支援体制を構築していくための手法の1つであって、重層的支援事業を目的にしてしまうと課題解決には至らないと考えているので、文言整理も含めて次回までに事務局と調整したい。現時点で大きな課題になっていない課題も、今後顕在化しないように今からできる施策を地域福祉計画に盛り込む必要があると思っているので、いただいた意見を含めて事務局で検討をお願いしたい。

委員：将来の様子がわかりにくいので、今後5年10年で変化するであろう数値が見える資料が欲しい。

事務局：今後の人口については総合計画でも予想しているので、資料として用意する。

委員長：施策・事業はニーズ調査の結果それに対応する取組だが、地域福祉を担う人材の育成はニーズ調査の結果を支える人になるので、他の施策・事業で同列に記載していいのか。極端に言えば基本目標の5番を人材確保として取り組むくらいの危機感を持たないと担う人材がいないため事業は進まないのではないか。人材は数と質の両方の側面があるため、人材確保について検討することを1つの項目に入れていくほうがいいのではないか。ニーズはある程度お金をかければカバーできる部分があるが、人がいなければどうにもならないため、そこに比重をかけるような意識を持つ必要があるのではないか。

委員：「罪を犯した人の自立支援」という項目を新規追加しているが、これまでの取組や今後の方向性についての考えを知りたい。

事務局：啓発や保護司会への補助を行っているが、直接的な支援は行っていない。市町村によっては、再犯防止推進計画を策定しているところもあるが、木津川市においては地域福祉計画の中に盛り込む形を考えている。

委員：具体的にどんな支援策を考えているか。

事務局：現時点で検討している具体的な新たな支援はない。

委員：京都府でも再犯防止と犯罪被害者の支援の計画と一体的に作られていて、こういった課題の背景には孤立・孤独の問題があり地域レベルでのネットワークをどう作っていくかを考えなければならない。市役所が現在行っている相談窓口で、該当する方に接した経験はあると思うので、その経験の中から課題を集約してもらえたらありがた

	<p>い。</p> <p>事務局：検討する。</p> <p>委員：犯罪や再犯の問題を考えるときに、生活困窮や障害の問題が大きい。犯罪に関する問題や犯罪被害についての問題は本人や家族も相談したくないものである。こういった問題の背景は単一の問題ではなく、様々な問題が絡み合っているもので、重層的支援事業にもつながっている。すぐに具体的な施策等を行うのは難しいかもしれないが、このテーマについて記載があるのは個人的に嬉しいと感じた。</p> <p>委員：新しい地域は仕事をしている世代では近所付き合いがなかった。退職してからの地域の居場所として老人クラブの活動やサークルを作ったりすることが大切と思っている。ひとり親世帯が増えているが、かつては祖父母が同居しており親代わりとなっていたが、現在はそういったことは少ないため経済的な支援だけでなく、人的な支援が大事だと思っている。</p> <p>委員：現行計画にも「自己決定によるサービス利用等の支援」があるがどういう意味あいなのか読み取りにくい。自己決定という言葉の前に意思決定支援という概念は絶対必要である。サービス利用のための意思決定支援の充実という考え方をに入れていただきたい。</p> <p>事務局：検討する。</p> <p>委員：全国的に住宅の問題が挙げられている。人口構造についての話もあったが、身寄りのない方とか1人暮らしをされる方が出れば、増えれば増えるほど、例えば典型的な保証人問題に直面する。計画の体系案に住宅の問題は含まれていなかったが、どこかの項目に落とし込もうという考えがあればそれで充実させてもらえればいいし、そうでなければ新たな視点として取り入れてほしい。住まいをどう確保していくのかということは、地域の関係者の協力や近所の方の理解が大事になってくる、地域福祉計画の中に位置付けるべき内容だと思っている。</p> <p>(5) その他について なし</p> <p>5 閉会</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>なし</p>